

NPO 法人岡崎がくどうの会

## 第 40 回あいち学童保育研究集会レポート

【クラブ】(つくしクラブ) 【名前】( 遠山 祥子 ) 【立場】( 指導員)

- ① 午後に参加した分科会の名称をお書きください。  
第(8)分科会 名称(子どものSNS やスマホ利用について)  
※午前の全体会のみに参加した場合は、全体会講演の名称をお書きください。
- ②全体会講演や分科会に参加して、心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください(自由記述)。

私は今回西川先生の講義を初めて受けました。

西川先生の話し方がとても心地よく、お話に引き込まれるように講義を受ける事ができました。

講義の内容もとても学びになりました。先生のお話の仕方も、出来ることなら私もそんなふう話したい。子どもたちとより良い関係性を作っていく為にも人を惹きつける話し方が出来たらと思いました。

今はスマホがあって当たり前の時代。子どもたちは生まれたときからスマホがあります。そしてその子どもたちを育てている親世代もスマホ世代です。

私達が冷蔵庫があって当たり前と思う事と同じ事だということでした。

そう言われるとすごくしっくり来ました。

今の子どもたちにとって SNS は身近にあって当たり前の事。だとしたら、どう付き合っていくのが良いのか考えさせられました。

デジタルネイティブの子どもたちは超便利社会の中で生活しています。子どもの誕生日プレゼントも指一本で買ってしまうし、コンビニへ行けば店員さんとの会話もほぼなし。コンビニへ行くことすら面倒くさく、Uber Eats で済ませてしまうなど、人と人が関わり会話することが昔に比べ少なくなっていました。

そしてスピード社会重視。「早くしなさい！」は子どもたちの思考を奪ってしまうとの事でした。人が物事を考えるには十分な時間が必要で、時間がないと感覚的に物事を判断するようになってしまうようです。私は子どもたちに早くしなさいと言っていないだろうか…?改めて思うと保育の中で言ってしまう自分がいます。学童での生活の中でも時間を見て行動してほしい。それも大切な事です。でも、早くしなさい！は子どもの思考を奪ってしまう…。どう伝えたらいいのか?自分への課題になりました。

デジタルネイティブの子どもたちは『いい子症候群』が増え、自分よりも周りにとっていい子であることを優先してしまったり、周りの喜ぶことを優先したりして、自分の気持ちを抑えて感情が空洞化してきてしまう。大人になっても自分で決めることがうまくできなくて焦ってしまう。

「決める」という行為が強い恐怖やストレスになるので、みんなで決めたり、見本にならったり、誰かに決めてもらう事で、自分のせいにされずに済むと考えてしまうとのことでした。

昭和の時代は人間関係を良くするためにコミュニケーションを増やしていたけど、デジタルネイティブの子ども達の時代は、人間関係を悪くしない為にコミュニケーションを減らすようです。そんな子ども達が大人に求めることは、いつでも相談や質問がしやすい、優しく穏やか、問題が起きた時にフォローしてくれる。安心できる人が良い。そんな大人です。

子どもたちにとって、私はそんな大人になれているだろうか…？日々の保育の中で子どもたちにとって安心できる大人になれるように、そう言ってもらえるように、子どもに寄り添い、学び、努力していきたいと思いました。